

## 私の留学体験記

広島県立安古市高等学校 1年 松浦 七美 (まつうら ななみ)

留学期間 令和元年7月25日 ~ 令和元年8月10日 (17日間)

留学先 セント・ジョンズ・グラマースクール (アデレード, オーストラリア)

私がオーストラリアの短期留学に行こうと思ったのは、海外の異文化を体験することによって、自分の中にある世界をもっと広げたくかったからです。また、留学を経験した先輩の体験談を聞いて、私も今までやったことない事に挑戦してみたいと強く感じたからです。私は英語が得意ではなく、英語を話すことも苦手だったので、留学に行くことが決まった時は不安がたくさんありました。しかし、オーストラリアの人々やホストファミリーはとてもフレンドリーに接して下さり、私が話を理解できるまで付き合ってくださいました。そのおかげで、とても楽しい留学生生活を過ごすことができました。

私がこの留学で学んだことはたくさんあります。例えば、オーストラリアでの食事は、日本と比べて量が多かったので、私はすぐにお腹がいっぱいになりました。日本なら、「お腹がいっぱいなら残してもいいよ」と、相手に気を使って言うてくださる方が多いと思いますが、オーストラリアでは「もう要りません」と、しっかりと自分の意思を伝えないと気持ちが伝わりません。私は、初めのうちは、ホストファミリーに気を使って無理をして食べていました。でも、勇気を出して「もうお腹いっぱいなので、ありがとうございます」と言ったら、相手も私の食べる量を理解してくれました。この経験から私は、自分の意思表示をはっきりすることが大切だということ学びました。

私はセント・ジョンズ・グラマースクールに行き行って驚いたことがあります。それは、インドネシア、フランス、中国、韓国など、色々な国の生徒がいたことです。また、その人たちは出身国などに関係なく交流を楽しんでいました。それぞれの国の文化が混ざり合っていて、日本にはあまりない光景なので、とても新鮮でした。言語や国、肌の色などが違っても、友達になり、分かり合うことができるという事を学びました。

実際に留学に行ってみて、私が不安に思っていたことは全然気になりませんでした。文法が分からなくても単語だけを言うとか、ジェスチャーを使うとか、相手に理解してもらおう工夫したら相手も分かってくれました。伝わった時は嬉しかったです。しかし同時に、課題も発見しました。ある授業の一環で、セント・ジョンズの生徒と気候変動について話し合う機会がありました。ディスカッションのテーマ自体が少し難しい内容なので、英語で自分の意見を伝えるには、単語やジェスチャーだけでは伝わりにくい部分もありました。もっと話を掘り下げていくには、今の私の英語の力では限界があると感じて悔しい思いをしました。

この短期留学を通して、もっと英語の力をつけて、世界の人とこれからの未来について深く話し合っていきたいと思いました。また、この思い出深い2週間を過ごして、今までよりも広い視野を持つことができるようになったと思います。とても貴重な経験ができて良かったです。留学で学んだ事を、これからの学校生活にも生かしていきたいと思っています。そして最後に、留学する事を認めてくれた両親、私を受け入れてくれたホストファミリーに感謝します。